学校名	北部小学校	
ホームページURL		児童・生徒数　３学年　１８名 全校１０７名
児童・生徒数　３学年　１８名 全校１０７名	センターのホームページを 通して公開することについて　公開可　・　非公開	

(1) テーマ

【研究テーマ】

「子ども一人ひとりが願いをもって自らの課題に取り組み、自己実現に向けて主体的に追究していける総合的な学習のあり方」

【自己指導課題】

「一人一人が自分の考えを持ち、考えに従って学んでいくための教師の支援はどうあったらよいか」

テーマの分類（　①ーオ　②　）

(2) 活動の単位に○をつけてください

学級・同一学年・3～4年
5～6年・学校・
その他（　　）
該当学年　３年
(回答可能な場合)

(3) 活動のねらい

ヤギを飼育するにはどのような活動をしていかなければならないのか考え、一人ひとりの切実な課題意識のもとに飼育活動に取り組むことを通して、生き物に対する愛情や生命の大切さを学ぶ。

(4) 活動の実際（活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等）　時数（70）

1.　活動内容　「ふるさと」をキーワードにした総合的な活動の展開
- ヤギの飼育とそれに伴なう小屋作りや餌集め

2.　学習方法・形態
- ヤギのためにどうしたらよいのか、自分は何をしたいのか、個々の思いを大切にして課題意識へと高める授業展開を図る。

3.　学習環境
- 総合的な学習の時間および他教科・領域との関連のなかで活動を設定する。

(5) 指導体制（校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等）
- 地域の方（ヤギを飼育している方、農林高校職員等）、保護者の方の協力を求める。
- 小屋作りでは子どもたちのイメージを大事にし保護者の協力を得て増改築を行った。
- ヤギを譲っていただいた方の家をたずねたり、来校していただいたりしながら、自分が疑問に思っていることや不安なことについて教えていただく機会をできるだけ多く設定する。

(6) 指導上の留意点（時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等）
- みんなでヤギを飼いたいという願いのもとに飼育を始めたが、特別活動や中核的な活動となることなく、一人ひとりのこうしたいという思いを大事にした学習活動となるよう配慮していく。
- 飼育活動の振り返りを記録したり、絵画に表現したりするなど他教科との関連を深める。

(7) 評価（基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際）
- 個々の児童に対する教師の願いを明確にし、ヤギの飼育活動を通してどのような子どもの変容が見られたのか、一人ひとりの評価観点にもとづいて行う。

(8) 成果と課題
- 自分の飼っていた動物の死から反抗的な姿を見せていた児童が、ヤギの飼育活動を通して素直に自分の感情を表現できるようになってきている。
- 寡黙的傾向のある児童が、ヤギのために自分のできることを精一杯取り組む姿を見せている。
- 子ヤギの誕生を待つ子どもたちであるが、何を願う子どもの育ちとするのか、何を学ばせるのかを明確にさせておく必要がある。

※テーマの分類　①横断的・総合的な課題（①ーア　国際理解　①ーイ　情報　①ーウ　環境　①ーエ　福祉・健康　①ーオ　その他）　②児童生徒の興味・関心に基づく課題　③地域や学　校の特色に応じた課題